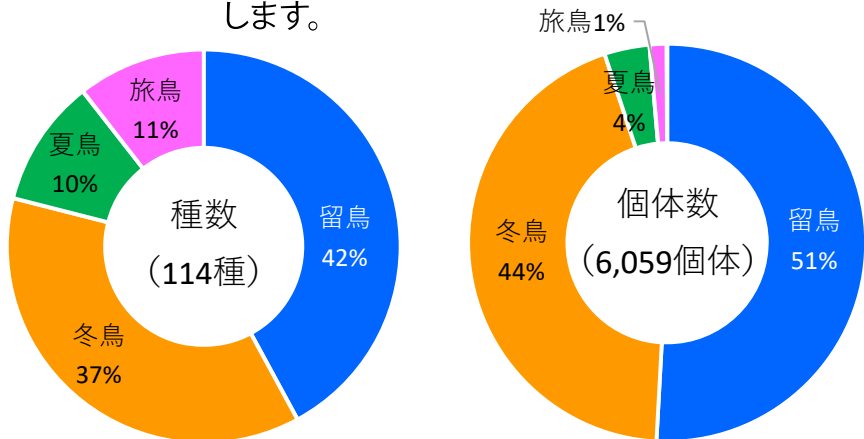


鳥 類

最新(R4年度)の河川水辺の国勢調査では、18目42科114種の鳥類が確認されており、このうち重要種(絶滅が危惧されている貴重な生物)は27種がみつかっています。

五ヶ瀬川水系は、下流の海岸・砂浜、干潟、中流の水辺湿地、ヨシ原、石礫地、上流の瀬・淵、山地樹林など、多様な生息環境が存在するため、鳥類の確認種数が多く、季節によって様々な種類がみられます。

- ・春渡り期(4月) :旅鳥のシギ・チドリ類が北国への渡り途中の中継地として、河口の砂浜や干潟に降り立ち、栄養補給を行ったり、休息して羽を休めます。
- ・繁殖期(5～6月):水辺湿地ではヒクイナ、石礫地ではイカルチドリ、ヨシ原ではオオヨシキリ等が子育てを行っているほか、五ヶ瀬川の下流に位置する広大な河畔林は、昔から多くのサギ類の集団繁殖地となっています。
- ・秋渡り期(9月) :北国で繁殖を終えたシギ・チドリ類が春とは逆に南国への渡り途中の中継地として、河口の砂浜や干潟に降り立ちます。また、R4年の秋は友内川で渡り途中のコウノトリも確認されました。
- ・越冬期(12～2月):広い水面ではカモ類、ヨシ原ではツリスガラ等、多くの冬鳥が渡来し、これらを狙って多くの猛禽類も渡来します。



R4年度の河川水辺の国勢調査における渡り区分別の確認種数(左図)・個体数(右図)の割合

調査地点位置図



ハビタット(生息環境)

砂浜・干潟



水辺湿地・ヨシ原



瀬・淵、石礫地、山地樹林



河畔林(サギ類の集団繁殖地)



五ヶ瀬川水系に生息する重要な生物や特徴的な生物



種名: シロチドリ(チドリ科)

海岸の砂浜や河口の干潟等で繁殖する留鳥です。干潟の上で素早いジグザグ移動と静止を交えて昆虫やゴカイ類などに詰め寄り、捕らえて食べます。



種名: コウノトリ(コウノトリ科)

かつては里山の水田や河川に生息しましたが、日本で繁殖・年中生息する個体群は絶滅しました。兵庫県立コウノトリの郷公園の保護事業によって生まれた幼鳥の兄弟がR4秋に友内川に飛来してくれました。



種名: ミサゴ(ミサゴ科)

留鳥として海岸や河川に生息します。主に魚類食の猛禽類であるため、水面上空を飛びながら餌を探し、見つけると急降下して水中に飛び込んで捕まえます。



種名: イカルチドリ(チドリ科)

河原の石礫地に浅い窪みを掘り卵を産む留鳥です。繁殖中は親もヒナも石礫地でじっとして動かないことが多く、保護色により周囲の石礫と紛れて見つけることが難しい鳥です。



種名: チュウサギ(サギ科)

ダイサギとコサギの間の大きさの白いサギです。湿地や水田に生息し、小型の水生動物や昆虫などを食べる夏鳥です。五ヶ瀬川下流の河畔林で繁殖しています。



種名: オオタカ(タカ科)

冬鳥として平地から山地の水辺や農耕地に渡来します。カモ類やハト類などを捕らえて食べる里地・里山の猛禽類として、生態系の頂点に位置します。



種名: ミユビシギ(シギ科)

外洋に面した砂浜に渡来する旅鳥です。波打ち際で波に追われるように走ってトビムシ類やゴカイ類などを捕まえる様子がよく見られます。



種名: ヒクイナ(クイナ科)

湿原、河川、水田などに生息する全身赤っぽい留鳥です。警戒心が強いので、姿を現すことは少ないですが、繁殖期の夜、「コッコッコッ…」と次第にテンポを早めながら鳴く声がよく聞こえます。



種名: オオヨシキリ(ヨシキリ科)

ヨシ原に渡来して繁殖する夏鳥です。繁殖期のヨシ原は「ギョギョシ、ギョギョシ、キチキチキチ」と鳴く本種の大きな鳴き声で、とてもにぎやかです。



種名: ツクシガモ(カモ科)

主に干潟や内湾に渡来する冬鳥です。潮が引いた干潟で地面にくちばしをつけ、振りながら歩いてエビ類や貝類、藻類などを食べます。



種名: キジ(キジ科)

山地から平地の林、農耕地、河川敷などの明るい草地に生息する留鳥です。雄は「ケン、ケン」と大声で鳴き、縄張り宣言をします。



種名: ツリスガラ(ツリスガラ科)

左のオオヨシキリと入れ代わるようにヨシ原に渡来する冬鳥です。ヨシの茎のかわをくちばして剥いて中にいる昆虫を食べます。

※留鳥…一年を通して、その地域で生活する鳥
夏鳥…春に日本より南の地域から渡ってきて繁殖し、冬はまた南に戻る鳥
旅鳥…その地域より北で繁殖し、南で越冬するため、北上する春と南下する秋に通過する鳥
冬鳥…秋に日本より北の地域から渡ってきて冬を越し、春にまた北に戻る鳥